

第1回 福知山千年の森づくり協議会 結果報告（概要）

標記協議会が開催されました。

◆日時 平成21年11月17日（火）

午後2時30分～5時

◆場所 福知山市民会館24号室

1 開会・挨拶

（松山正治福知山市長）

- ・平成20年度に「福知山千年の森づくり基本計画」を策定した。私どもは、この計画に基づき国定公園内の森を千年先の将来に引継いでいきたい。
- ・エコツーリズムの推進が今後の森づくりにかなりプラスとなるので、皆さんの協力をお願いしたい。

2 出席者紹介

- ・25名中5名欠席

3 委嘱辞令交付

- ・代表して
森本幸裕 京都大学大学院地球環境学堂教授に
松山市長より交付

4 協議事項

（1）第1号議案 規約（案）の承認

（2）第2号議案 役員の選出

①森本会長挨拶

- ・千年の森づくり基本計画策定時から関わっている。また関われる事はありがたい。
- ・里地里山が国定公園になった事は日本全国で最先端の公園である。
- ・地元の資源を活かす事が大切。
- ・若い人に加入していただき力強い。
- ・皆さんが主人公。

②村上副委員長挨拶

- ・大江山が大好き。
- ・若い方にも期待している。



協議会開会



松山市長挨拶



委嘱状交付



森本会長挨拶

③仕名野副委員長挨拶

- ・現在は自然公園指導員をしており、指導員間で情報交換を行っている。
- ・この協議会についても積極的に協力していきたい。

(3) 第3号議案 平成21年度事業計画(案)

(4) その他

- ・丹後天橋立大江山国定公園について
- ・福知山千年の森づくり基本計画について

※事務局より提案を行い、全て承認された。

5 意見交換(委員の意見)

- ・大江山の自然に関わる活動を年に何回か行っており、それに参加する人が増えている。
- ・これから協議会でどのような事をするのかイメージはわからないが色々協力していきたい。森に対する情熱はかなりある。
- ・女性の団体としてどういうことが出来るか、また女性の視点で勉強していきたい。
- ・まだ、自分が何をしたらいいのかわからないが、山や村の中を歩くと何か発見がある。現地を見ることが大切である。
- ・具体的に何をしていたらいいのか現段階ではよくわからないが、色々なアイデアを出して協力できればと思う。
- ・環境会議としてもこの協議会に参加することはチャンスであると思う。
- ・環境基本計画が策定されてから5年になるが、千年の森づくり協議会と意見は一致する。
- ・地元で就職する予定なので、協力していきたい。
- ・エコツーリズムや山の自然を生かして新しいことを勉強し、学生の視点で色々な意見を出していきたい。
- ・農林業の過疎化が心配である。①耕作放棄田 ②鳥獣害 ③担い手不足が課題である。
- ・農林業の振興を含んでいるので、地域の方と一緒に活動していきたい。



- ・この協議会に参加していき、この会の中で自身の知識を高めて参加していききたい。
- ・地域の方が森に入られなくなった。田もだいぶ荒れている所が多いと地元の方も感じている。
- ・林業に関しては、材価も安くなった今、どの様な整備を図っていくのか。年次目標があるが、この協議会の中で意見を聞き進めていきたい。
- ・エコツーリズムについても役割分担をしてやっていく必要がある。
- ・千年先に伝える事が必要で、この活動は長く続けることが大切。
- ・教育面も重視して地域の方の声を聞いて整備していかなければならない。
- ・地元の人間でも山へ行かなくなった。
- ・京都府の事業で三岳山全体を5年計画で間伐してもらっている事は大変ありがたい。
- ・地域では高齢化が進んでいるが、出来る事からやっていきたい。
- ・モデルフォレストの活動として会社全体で森林保全に取り組んでいる。



左から浦野、井上、赤松、藤原委員



左から藤田、日野、森田、正木（代理 有）委員

- ・2007年7月から大江地区毛原を拠点として月1回第2土曜日に活動している。
- ・現在は、三つ葉つつじ群の復活を進めている。
- ・これからは行政主体ではいけない。委員が積極的に計画も含めて進めていく必要がある。観光協会でも地域振興に力を入れていきたい。
- ・事務局を中心にやってもらうこともある。
- ・行政の欠点は縦割りであることだ。
- ・事務局と各団体との連絡を密にしてほしい。
- ・里山に住んでいる人が見ても山が荒れていることがわかる。
- ・里山を利用するには、何か仕掛けを作っていかなければならない。オランダでは花屋グループが大工に窓際に花の鉢を置く棚を設置してほしいという提案をした。この仕掛けがきっかけで今では窓際に花を飾る事が当たり前になっているという事例がある。
- ・大江山鉱山の跡地を緑化できないか。
- ・自生していた植物を復活させ、毎年4月・5月には花いっぱいになればいいのだが。
- ・三岳地区でも高齢化が進んでいて、70歳代が頑張って山を守っている。
- ・組合としても山が荒れるのは防がないといけない。
- ・木材が安くなり放置されている。
- ・山を歩けば先人達が残した知恵や文化がいたるところで発見できる。
- ・里山は文化財だ。後世まで残していかなければならない。
- ・最近、有毒きのこが増えてきている。山の手入れを怠っているせいか。
- ・森づくりは息の長いものだから、とにかく継続をしなければならない。
- ・情報の発信を！この協議会の意見なども公開していければいい。
- ・事務局が仕組み・場をつくる。
- ・森づくりについて案の段階から参画したい。

6 閉会（副会長挨拶）

（村上副会長）

- ・ 2年間かけた策定した計画が、ようやくスタート出来た。
- ・ 森づくりとエコツーリズムがドッキングしている組み合わせは他の地域では見られない。
- ・ 森づくりとエコツーリズムを組み合わせで創意工夫していかななくてはならない。